



美喜和会オレンジホスピタル

医療法人美喜和会

(平成30年2月16日)

平均在院日数 272.8日

(平成30年1月31日時点)

積極的な取り組みなど

- ベッドの間仕切りが、机と椅子に加え複数の引き出しとクローゼットが一つのセットになっており、障子のような部分もあり、高さはあったが圧迫感がなくきれいで非常に良かった。ベッド周りのカーテンも患者が自由に使用していた。
- 病棟全体がゆとりのある空間となっていた。
- 携帯電話は主治医の許可があれば6:00-21:00の間に使用でき、充電は自分のベッド付近でできる。通話は公衆電話の周辺で行う。2E病棟では、携帯電話を持っている患者が約半数いた。

前回の訪問(平成26年3月)から改善されていた点、未改善点等

- 前回訪問時、患者の多くは、職員が同伴し、バスで外出していた。また、サポーターに常に職員2名程が付き、サポーターが何を見ているのか、誰と話しているかを、メモに記入し続けていた。今回は、サポーターが自由に患者から聞き取りをすることができた。
- 前回訪問時、意見箱への投書の綴りには「薬の説明を丁寧にして欲しい」との意見があり、患者から「病気や薬の説明をしてもらったことがない」「薬が増えたけれど、内容を説明してもらえなかったので、飲むとどうなるのか心配」との声があった。病院からは「常に薬の説明については医師や薬剤師より説明を実施しておりますが、患者がわかりやすいように服薬指導回数を増やすなど、また説明の仕方にも配慮いたします」とのことだった。今回は「薬や病気についての話はある」との声があった。
- 前回訪問時、隔離室の窓を覆う形で、天井からぶら下がるような柵が設置されており、見上げると先の黒い部分が目に入り怖かった。今回確認したところ、変化はなかった。
- 前回訪問時、定員12名のグループホームのうち5室が空室となっていた。「地域の自治会活動に参加し、掃除や公園清掃などに参加できることが入居条件」で、その理由は「地域住民の偏見をなくすため」とのことで、グループホームへの退院に対する高いハードルになっているようだった。今回訪問時に確認すると、グループホームは2017年3月に閉鎖したとのことだった。
- 前回訪問時、3E病棟では、患者が詰所に何かを訴えに来ていたのに、職員らが相手にしていない様子が見られた。今回はそのような様子は見られなかった。
- 前回訪問時、保険外費用の中にお茶代として1日21円があった。今回は無料だった。
- 前回訪問時、3W病棟では病院に預けている金銭を受け取るために10名ほどの患者が並んで待っていた。今回はそのような姿は見なかった。
- 前回訪問時、手帳や年金のための諸文書料についての掲示は、大きなフォントで見易かったが、その中にある死亡診断書料もまた大きな文字で目立っていた。病院からは「近畿厚生局からの掲示であるため、当局との相談の上で対応する」とのことだった。今回も同じように掲示されていた。
- 前回訪問時、3W病棟では車椅子用トイレが使用中だったため、車椅子の患者2名が車椅子用ではないトイレのドアを開けたまま使用していた。今回は、そのようなことはなかった。



病院全体

建物や病棟構成等は前回訪問時から変わっていませんでした。

人権委員会

人権委員会は月1回、委員長は院長。職員から患者に対する暴力や暴言等の問題がある場合には、この場で検討されるとのことだった。

行動制限最小化委員会・身体拘束

2W病棟では、入院患者のうちの22名が、車椅子利用時にずり落ちや立ち上がり防止のために拘束をされていた。職員によると「全て身体拘束の手続きをとっている」との説明だった。

診察・薬

診察室は各病棟の詰所内にあり、扉のあるプライバシーを保てる構造だった。薬は看護師が配薬する。患者によって1日分・3-4日分・1週間分を自己管理してもらうようにしているとのことだった。

外出

患者が外出届を記入して外出を申請し、外出時には患者に外出カードが渡される。2E病棟では、詰所の出入口付近に「外出サポート表」という患者の一覧があり、患者から外出の申し出があった場合に、すぐに患者の外出についての処遇を確認できるようになっていた。外出可能時間は10:00-11:45、13:00-17:00、食事が不要な時間に外出するためには、前日の夕方までに所定の用紙で申請し、医師と看護師で確認する。午前は殆どが院内の敷地の散歩であるが、午後は開放処遇制限の掛かっていない患者は、病院のバスを利用して駅周辺で過ごして帰って来る等している、とのことだった。

入浴

2E病棟では、入浴は基本的に週2回。大浴場の他に一人で入れる湯船もある。詰所に入浴希望を書く紙があり、単独で入浴できる患者は毎日でも入浴できる。1人用シャワー室もあり、10:00-12:00の間に使えるが、予約する必要がある。2W

病棟では、単独で入浴できる患者（約3分の1程度）は、さらに週2回（計週4回）は入浴できる。

面会

面会時間は10:00・20:00で、各病棟に面会室があった。

金銭管理

病室にあるロッカー利用料は1日32円、金銭を病院に預ける場合の管理費用は1日108円だった。

PSW・退院支援

地域医療連携室は1階の外来横にあった。病棟担当のPSWは6名。入院時に担当したPSWが担当として付くとのことだった。医療保護入院者の退院支援委員会の退院後生活環境相談員はPSWだった。

隔離室

2E病棟は6床、3E病棟と3W病棟は各2床あり、木目調の壁で窓も大きく明るかった。2重扉になっており、2つの扉の間に洗面台があった。室内のトイレへの入口には扉が設置されていた。ナースコールはなく、集音マイクとモニターカメラが付いていた。モニターカメラの位置を調整し、トイレを使用している様子は上半身のみ映るように工夫している。

2E病棟 閉鎖 男女 急性期治療病棟 48床

新規の入院患者の殆どが、最初に入る病棟。認知症を含め様々な疾患の患者が入院している。

患者の声

「御飯を食べる所で薬が配られる」「診察はいつも病室でもらっている。週1回は先生と会っている」「一人当たり広い。4人部屋でゆっくり寛げる」「入院1ヶ月。大事な物を置けるスペースがあっという」「洗濯は自分でする」「ホールで交流できるので安心」「デイケアの音楽喫茶、聞きたいCDを流せる」

**2W病棟 閉鎖 男女 認知症治療病棟 60床**

58人中 39人が車椅子を利用。デイルームでは体操をしており、たくさんの患者がフロアに出ている。病棟には、節分に作成したコラージュが飾っており季節感があった。PSWと連携を図り、周辺症状が落ち着けば自宅や施設に退院できるよう進めているとのことだった。

3E病棟 開放 男女 精神一般病棟15:1 60床

高齢の患者が多く、下肢の運動能力を衰えさせないためにSST等を行っているとの説明を受けた。40年近く入院している患者もおり、退院は年間を通して数名とのことだった。

患者の声

「入院半年。小遣いはなし。外出はしない」「病棟から外には出ない。春と秋のレク（リエーション）には参加している」「レクなどには参加していない。ベッドの上で、殆ど過ごしている。退屈する」「診察は週1回だが、主治医とはあまりしゃべらない」「小遣いは月に3回、面会に来たときに貰っている。自分でカギを持っていて、保管している」

3W病棟 閉鎖 男女 精神一般病棟15:1 60床

平成30年5月から特殊疾患病棟として運用する予定。車椅子など身体的な障害があり援助が必要な患者に他病棟から移ってもらっているとの説明を受けた。

患者の声

「診察は週1回。外に出ることはない。こんな所に、入れんといてちょうだい」「寝たきりなのでテレビを見たりして、過ごしている。外出はない」「診察は週に2回。ごはんはおかゆなので物足りない」「面会に来る人は一人もない」「入院して2年。携帯を持ってない」「物が少なく、イライラする」「暇な時はカラオケに参加したり、ビーズを作っている」「2年自宅に帰っていない」

検討していただきたい事項**患者のプライバシーについて**

- (1) 3W病棟では、詰所にある隔離室のモニターが、フロアから丸見えの位置にあった。（病院：3W病棟の件はモニターに遮光フィルムを貼付し外から見えないようにしました。）
- (2) 2E病棟では、隔離室があるエリアは病棟から繋がっており、誰でも往来できる状況だった。そのため、廊下からは、隔離室内の患者が大声で騒いだり歌ったりしている様子が見えた。（病院：一般病室と隔離室エリアの境界の扉を施錠しました。隔離室内の患者の声も、扉を閉めることで一般病室には届かないようになりました。）

落ち着いて療養できる環境を

- (1) 2E病棟では、障害者用トイレの鍵部分が取り外されていた。訪問時、使用中の患者がいたが、複数の患者からドアを何度も開けられてしまい、使用中の姿を見られてしまっていた。2W病棟のトイレの複数個所で、内側から鍵が掛けられない状態のところがあった。3E病棟の2ヶ所のトイレに「使用禁止」の張り紙がされていた。職員によると、水が溢れてしまい故障中とのことだった。（病院：2E病棟の2箇所の多目的トイレの内鍵は取り付けられ、正常に作動することを確認しました。2W病棟の2箇所の多目的トイレのうち、1箇所のトイレの内鍵がない状態を確認しました。早速、対応して内から施錠できるようにしました。その他一般トイレは全て施錠できる状態を確認しました。3E病棟のトイレ使用できない状態については、修繕対応しました。）
- (2) 3W病棟の個室の窓際の壁は、ボールペンで落書きされたままになっていた。（病院：改修しました。今後、落書き発見時には直ちに対処します。）



意見箱について

- (1) 意見箱の名称は、前回訪問時と変わらず「MAILBOX」とだけ書いてあった。一方で、投書するための用紙は「ご意見箱」となっており、統一されていなかった。(病院：意見箱の名称は、「ご意見箱」に統一いたします。)
- (2) 意見箱の投函口が大きいので、そこから手を入れると底まで手が届き、鍵を開けなくても投書を取り出すことができる状況だった。(病院：投函口については幅を狭めて、手が入らないように改修します。)
- (3) 前回訪問時と同様、意見箱の近くに用紙やペンが置かれていない病棟があった。(病院：ペンは自傷・他害の道具になる可能性があるために設置しないことを院内ルールにしております。用紙は設置いたします。)
- (4) 意見箱の回答は掲示されておらず、ファイリングされていると言われたが、回答の綴りは、3E病棟では意見箱からは離れたデイルーム、3W病棟では詰所の中にあった。掲示しないのは破られたり異食したりする患者がいるためとのことだった。今年の見解の内容を確認したところ、殆ど意見がなかった。(病院：1件1件精査をして、各関連部署で是正対策を練って対応し、患者の療養環境の向上に努めて参ります。)

退院に向けた情報の提供について

患者から「いつからの入院かは分からない。家に帰りたい」「入院して長い。退院したいと思う。先生からは退院の話はない」等の声が聞かれた。どの病棟でも「ケースワーカーを知らない」という声が聞かれた。更に「退院に向けての話は全くない」「困った時に相談する人はいない」等の声も聞かれた。(病院：現在、ベッドネームには「入院日」「主治医名」「担当PSW名」「担当看護師名」を明記しています。併せて、PSWの配置について検討し、入院患者からみて担当者がわかるように今後、検討します。平素より担当者との面接などを通して相談が容易にできるように改善します。)

金銭管理について

3W病棟では、病院に預けている金銭を受け取る金額は、1日ごとに150円か130円となっている患者が殆どとのことだった(自動販売機で買えるジュース等の値段が目安になっている)。また、金銭の渡し方は、患者の要望により看護師がお金を持ち、患者と一緒に自動販売機へ行き、看護師が小銭を自動販売機に投入し、患者が飲みたいものを選ぶといった方法であった。(病院：当院では、入院中の嗜好品や日用品の購入、理美容費等にかかる費用の出金や代理購入について金銭をお預かりする金銭管理サービス(保険外)を行っています。このサービスを利用される方は、契約時に患者・家族と出金額とお渡し方法を取り決めていきます。出金額とお渡し方法は、患者の金銭管理能力と経済状況に応じて毎日・週ごと・月ごと・希望時という形で決めています。出金した金銭につきましては、患者に自己管理をしていただいています。)

トイレトペーパーの設置について

トイレトペーパーが置かれていない病棟がいくつかあった。(病院：2W病棟においては認知障害でトイレトペーパーの取り込みや異食をする患者が多数いる関係から、詰所に設置している状況です。この点については、病棟で再度検討していきます。その他病棟で通常通りトイレトペーパーは全てのトイレに設置しました。)

公衆電話について

- (1) 電話の位置が、詰所の向いや、デイルームに面していたり、TVや自販機や給茶機の近くにあたりで、いずれも困いなどはなかった。(病院：今後、通話の状況が見られないような構造物の設置も検討します。他施設での設置状況の情報収集をして、当院で導入できる対応を検討します。)
- (2) 2W病棟では、精神医療審査会の電話番号の用紙が磁石で貼られずすぐに取れてしまうような状態であった。(病院：剥がれないものに交換します。)



掲示物の修正

一部の病棟に掲示されていた保険外費用の掲示物に修正前のものがあり、現在は徴収されていないお茶代が記載されていた。また、病院のしおりにも同じようにお茶代の費用が書かれていた。

(病院：掲示内容変更時、院内の掲示物はもれなく更新するようにいたします。)

精神保健福祉資料より(平成28.6.30時点)

254名の入院者のうち統合失調症群が113名(44%)、精神作用物質による精神及び行動の障害が65名(26%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が53名(21%)。入院形態は任意入院139名(55%)、医療保護入院114名(45%)、措置入院1名(0.3%)。在院期間は1年未満が155名(61%)、1年以上5年未満の患者が40名(16%)、5年以上10年未満の患者が29名(11%)、10年以上20年未満が25名(10%)、20年以上が5名(2%)。



クリック

ほぼは 大阪府内の精神科病床のある
全病院への訪問活動の報告です。

210ページの
のうち 192ページ

認定 NPO
大阪
精神医療
人権センター
30周年

A4 サイズ/210 ページ
2,000 円

目次

- ・大阪における精神科病院への訪問活動のうづりかわり
- ・療養環境サポーター制度について
- ・各病院の訪問報告
- ・各病院の職種別職員数一覧表
- ・精神科病院訪問ボランティアへのインタビュー
- ・入院中の精神障害者の権利に関する宣言

この本の使い方はいろいろ

- 「大阪府内の精神科病院の情報を知りたい」
- 「病院訪問活動の視点を知りたい」
- 「実習前に精神科の療養環境について知っておきたい」
- 「自分の勤務する病院を見つめなおしたい」



療養環境サポーター
最新報告

人権センターニュース毎号2病院掲載中

入会やご寄付のおねがい

私たちの財政的基盤の中心は「会費」や「寄付」となります。活動を維持し、充実させるためには、皆様からの支援が必要となります。



電話・面会相談では相談者の方からお金を頂いておらず、訪問活動（療養環境サポーター制度）でも大阪府等から委託費用の支払はありません。特に面会活動の拡充のためには、交通費（1回 2,000 円～ 4,000 円／2名分）や複数の事務局スタッフの人件費（年間約 500 万円）が必要となります。

会費・寄付の申込と支払方法

ご寄付もいつでも受付けています。

会員種別
年会費

賛助会員	
障害者	1,000 円
個人	3,000 円
団体	5,000 円

特別協力会員
& 寄付
大募集

特別協力会員	
A	10,000 円
B	30,000 円
C	50,000 円

会員特典

人権センターニュースの送付 2か月に1回 年間6冊

人権センターニュースは、「声をきく」ことを重要な価値観とする私たちだからこそ発信できる情報が盛りだくさんです。また、病院訪問報告書も毎号2病院掲載しており、大阪府内の病院の療養環境の改善状況等を知ることができます。当事者・家族の皆様だけでなく、精神科病院に勤務する皆様や地域精神医療保健福祉にかかわる皆様にも必見です。

メルマガ配信 1か月に1回から2回

精神医療及び精神保健福祉にかかわる最新ニュースや私たちの講演会・セミナー情報をいち早くお知らせします。

活動参加のための情報提供

面会活動だけでなく、講演会の企画・運営や広報誌・SNS による情報発信のサポート等いろいろな形で参加できます。

※面会活動は養成講座の受講が条件となります。



寄付特典

ご寄付をしていただく場合、確定申告によって『税額控除』を受けることができます。

税額控除とは？

※確定申告は最寄りの税務署にて相談ください。

※大阪府（堺市を除く）に在住の方は、地方税分も控除されます。

※控除には限度額があり、実際の税額はケースにより異なります。

寄付金 1 万円の時

所得税額 -3,200 円

実質負担 6,800 円

寄付金 5 万円の時

所得税額 -19,200 円

実質負担 30,800 円

10,000 円のご寄付で、2～3名の面会が可能になります。

郵便払込	口座番号 00960-3-27152 加入者名 NPO 大阪精神医療人権センター
銀行振込	三井住友銀行 南森町支店 普通 1485805
現金	講演会会場・事務所にて
クレジットカード	ウェブサイトのみ



こちらより申込書をダウンロードできます

検索 大阪精神医療人権センター
<http://www.psy-jinken-osaka.org/>

入会・寄付は WEB でも手続きできます。

クリック

認定 NPO 法人大阪精神医療人権センター

お問い合わせ

〒530-0047 大阪市北区西天満 5-9-5 谷山ビル 9F

TEL 06-6313-0056 FAX 06-6313-0058 メール advocacy@pearl.ocn.ne.jp